

氏名	千葉 賢		職名	教授（博士（工学））	
専門分野	沿岸海洋物理、数値流体力学				
所属学会	日本流体力学会、土木学会				
教育活動					
教育実践上の主な業績		概 要			
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		<p>コンピュータのしくみ等を教える「コンピュータ科学」は、経済学部と総合政策学部からの受講生もいるため、理数的な内容は極力減らし、文系学生にとって理解し易いように心がけた。一方で、情報理論や技術を詳しく学びたい受講生もいるため、最新の話題にも触れて、興味を引き出すように工夫した。そのためにビジュアルな教材をなるべく用意し、実物を回覧するなどの工夫を行った。また、毎週、学習内容の小問題からなる理解度確認レポートを出席者全員に提出させ、それを朱筆訂正して翌週に戻した。授業評価は「非常に分かり易い」から「とても難しい」まで幅が広い。文系と理系の学生が混じった状況においては、適度な難易度レベルで授業を実施していると考えている。</p> <p>2年次から始まるセミナーでは、在学中にパソコンのエキスパートになることを目標とさせており、パソコンを使ったデータ分析、報告書作成、データベース、コンピュータグラフィクス、プログラム制作などを浅く広く学ばせている。特に発表技術には重点を置き、発表機会を多く与えている。その効果があつてか、卒業研究の発表会では、良い発表を出来る学生が多い。</p>			
2. 作成した教科書、教材、参考書		なし			
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		なし			
4. その他教育活動上特記すべき事項		<p>三重大生物資源学部の練習船「勢水丸」を共同利用した「伊勢湾海洋調査実習」の企画と実施を担当した。この授業は平成 22 年度から単位化され、正規の授業に組み入れられた。参加学生の実習への評価は非常に高く、教育上の効果は極めて高い。</p> <p>高校生対象のサマースクール「高松干潟を科学する」を企画運営した。このスクールは平成 21 年の日本科学技術振興機構の SPP(サイエンスパートナーシッププロジェクト) に採択された。</p> <p>四日市大学の学生主体の四日大エコ活動(四日市大学環境協働活動会議)の結成と、その後の活動の支援を行った。エコ活動は学生の活性化と、学内竹林の整備、大学の知名度向上に大きく貢献した。</p> <p>環境情報学部 1 期生から 5 期生への卒業生動向調査を実施し、勤務先、業種、転職率などの情報をまとめた報告書を作成した。この情報は在学生指導や今後の学部の教育方針決定に大きな役割を果たすことが期待される。</p>			
研究活動					
著書・論文等の名称	単著 共著	発行または 発表の年月	発行所、発表雑誌 (巻・号数)等の名称	編者・著者名 (共著のみ記入)	該当頁数
論文					
Physical Model and Numerical Tests on Activation of Tidal Exchange by Bottom Roughness in the Ariake Sea	共著	平成 19 年 8 月	Proceedings of the 15th Congress of APD-LAHR	S. Yano, A. Tai, S. Chiba, Y. Kouyama, K. Fujita, T. Komatsu	108-115 頁

Early Diagenetic Model for Sediment of Ago Bay Japan, Comparison between Steady State and Dynamic Calculation with Seasonal Variation	共著	平成 20 年 4 月	Ecological Modelling, Vol.215(1-3)	G.A.Anggara Kasih, S.Chiba, Y.Yamagata, Y.Shimizu, and K.Haraguchi	10-39 頁
Application of the early diagenesis model to Ago Bay sediment, Japan: Comparison of the sediment characteristics between two observation sites	共著	平成 20 年 4 月	Global Environment Engineering Research, Vol 16	G.A.Anggara Kasih, S.Chiba, Y.Yamagata, Y.Shimizu, and K.Haraguchi	51-61 頁
流動場の特徴と海水交換特性	共著	平成 20 年 6 月	海洋と生物 第 30 巻,第 3 号	千葉 賢,山形 陽一	263-271 頁
底質の特徴と底質悪化現象	共著	平成 20 年 6 月	海洋と生物 第 30 巻,第 3 号	山形 陽一,千葉 賢,原口 浩一,清水 康弘,百島 則行,久野 章仁,松尾 基之	283-294 頁
基礎生産と動植物プランクトンの特徴	共著	平成 20 年 6 月	海洋と生物 第 30 巻,第 3 号	増田 健,千葉 賢,谷村 篤,畑 直亜,原口 浩一	328-334 頁
集水域における土地利用と海域への負荷	共著	平成 20 年 6 月	海洋と生物 第 30 巻,第 3 号	高橋 正昭,井岡 幹博,千葉 賢,篠田 成郎	341-347 頁
英虞湾の物質循環と底質悪化原因の検討	共著	平成 20 年 6 月	海洋と生物 第 30 巻,第 3 号	千葉 賢, G. A. Anggara Kasih, 山形 陽一, 前川 行幸, 松田 治	348-359 頁
水質の特徴と経年変化	共著	平成 20 年 6 月	海洋と生物 第 30 巻,第 3 号	原口浩一, 増田健, 山形陽一, 千葉賢	272-282 頁
英虞湾流入河川中の栄養塩の挙動について(第 2 報)	共著	平成 20 年 9 月	四日市大学環境情報論集, 11, No.2	高橋正昭, 井岡幹博, 千葉賢	19-26 頁
Numerical model on the material circulation for coastal sediment in Ago Bay, Japan	共著	平成 21 年 4 月	Journal of Marine Systems, 77	G. A. Anggara Kasih, Satoshi Chiba, Youichi Yamagata, Yasuhiro Shimizu, Koichi Haraguchi	45-60 頁
Effects of phytoplankton vertical migration on the formation of oxygen depleted water in a shallow coastal sea	共著	平成 22 年 4 月	Estuarine, Coastal and Shelf Science, 86	K. Haraguchi, T. Yamamoto, S. Chiba, Y. Shimizu, M. Nagao	441-449 頁
報告書					
英虞湾の物質循環(第 2 章)	単著	平成 20 年 3 月	英虞湾物質循環調査報告書		3-82 頁
英虞湾の流動(第 3 章)	共著	平成 20 年 3 月	英虞湾物質循環調査報告書	千葉賢,山形陽一	83-128 頁
英虞湾の水質(第 4 章)	共著	平成 20 年 3 月	英虞湾物質循環調査報告書	原口浩一,千葉賢,清水康弘,奥村宏征,山形陽一,増田健	129-172 頁

英虞湾の底質（第5章）	共著	平成20年3月	英虞湾物質循環調査報告書	山形陽一, 千葉賢, 清水康, G.A. Anggara Kasih, 百島則幸, 国分秀樹, 渥美貴史, 石樋由香, 原口浩一, 久野章仁, 松尾基之, 畑直亜	173-268 頁
プランクトンと基礎生産(第6章)	共著	平成20年3月	英虞湾物質循環調査報告書	増田健, 谷村篤, 千葉賢, 畑直亜, 田中正明, 原口浩一, 山形陽一	269-312 頁
集水域の特徴と海域への負荷（第7章）	共著	平成20年3月	英虞湾物質循環調査報告書	高橋正昭, 国分秀樹, 井岡幹博, 篠田成郎, 千葉賢	313-352 頁
三重県における自然環境の変化（海域）	共著	平成21年3月	持続可能な三重：その展望	新田義孝, 千葉賢, 他	193-245 頁
英虞湾環境動態シミュレーションモデルの改良	単著	平成22年3月	三重県受託研究報告書	千葉賢	1-40 頁
主な学会活動					
発表（報告）名等	単独 共同	発表の年月	学会名等		
学会発表					
英虞湾の環境動態予測 英虞湾の物質循環と環境動態予測モデル	単独	平成19年9月	三重県地域結集型共同研究事業「事業終了報告会」, アスト津ホール		
Utilization and Future Perspective of Automatic Environmental Monitoring System in Ago Bay Restoration Project	共同	平成19年11月	2 nd International Workshop on Management and Function Restoration Technologies for Estuaries and Coastal Seas, Ansan, Korea		
Effects of phytoplankton vertical migration on the formation of oxygen depleted water in a shallow coastal sea	共同	平成20年10月	EMECS 8 (第8回世界閉鎖性海域環境保全会議), Shanghai		
Nutrients, Organic Carbon and Oxygen Budget in Semi-Enclosed Ago Bay, Japan	共同	平成20年10月	EMECS 8 (第8回世界閉鎖性海域環境保全会議), Shanghai		
社会における主な活動					
平成20年4月～平成23年5月(現在に至る)	英虞湾自然再生協議会・副代表				
平成22年5月～平成23年5月(現在に至る)	練習船勢水丸共同利用運営協議会構成員				